

親子で考える情報モラル教材の提供と有効性の検証

—小学校高学年での実践と一考察—

兵庫県相生市立双葉小学校 教諭 山本 哲也

キーワード：情報モラル育成，親子学習，eラーニング，家庭教育力

1. 研究の概要

児童を取り巻く情報社会は日々変化しており、利便性の反面、いろいろな「影」の問題点がクローズアップされている。インターネットを利用していく中で、健全な発育を阻害する有害情報に触れたり、誹謗中傷合戦や迷惑メールの被害に巻き込まれたり、好ましくない経験をする子どもが多くなっているのが現状である。子どもたちが自分自身や他人の人権を守るために必要なモラルやネチケットを育成することは、小学校段階から発達段階に応じた取り組みが求められる重要な課題であるといえる。

児童が情報モラルやネチケットを学び実践する場は「学校」と「家庭」の2つである。学校では授業活動でのコンピュータ等情報機器の使用が主なので、教師が児童に教えるべきネットワーク使用上の注意点はある程度明確だといえる。しかし、家庭での使用状況は実態がまちまちで、児童のネットワーク活用に対する考え方はその保護者の価値観により異なってくる。また、万一危険にさらされた場合、学校では指導中の教師が対応できるが、家庭で児童がインターネット等を利用して、トラブルに巻き込まれた場合には誰も助けることはできない。家庭でのネットワーク使用は親にしか関われないことであり、親として高い関心と知識を持つ必要がある。そのためには家庭での教育力を高めるための取組を行う必要がある。

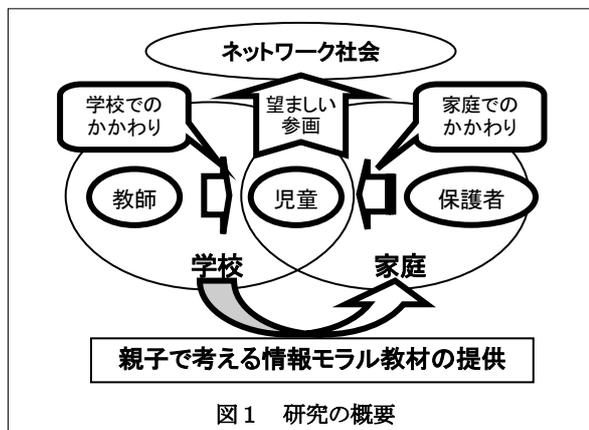


図1 研究の概要

2. 企画の実際

児童の情報モラル意識をより定着させるためには、情報モラルを「親子で学ぶ」ことが望ましい結果を生むことができる。なぜなら、わが子の実態や考え方を知らなければならないので、親子で話し合う機会を取り入れた教材を提供すれば、今後取るべき家庭でのインターネット等の活用の姿を親子で真剣に考えてもらえるのと考えからだ。そこで、実際に児童がネット活用中に直面しうる課題を提示し、保護者と児童がそれぞれの思いを出し合い話し合える場面を多く取り入れたデジタル教材を作成し、学習時間や回数、進度の自由度が高いeラーニングの形態で提供した。また同時に、話し合いの留意点を記した資料も紙媒体で準備し、すべての家庭に事前配布した。これらには作成した教材内で取り上げられたすべての話し合う課題が、どのような意図のもと作られたのかを明らかにすることで、指導者がねらう親子での話し合い活動が効果的に行えるように配慮した。

学習実施中は、主にeラーニングサーバに記録された各家庭からのアクセス記録の解析や、システムに備えられたレポート提出機能や電子掲示板の管理を通して学習の補助を行った。学習時間が極端に少ない家庭に対しては、個別に親子学習の意義を再度連絡し、望ましい学習が進められるよう理解を求めた。また全家庭に対し、紙媒体の通信を発行することで、親子学習の意義を徹底することに努めた。通信は週1回の割合で発行した。



写真1 学習風景

3. 研究の成果

- ・親子で考える情報モラル学習教材を作成した。(eラーニング版およびCD-ROM版)
- ・インターネットなどの活用で気をつけることや、トラブルが起きたときの対処法など保護者自身の情報モラル意識を高めることができた。
- ・親子で話し合うことで、保護者が児童の実態を掴むことができ、結果として児童に情報モラルを育成する必要があることの理解を得ることができた。